

中国の大地震の原子力関係の影響について（５）

20. 5. 21 13:30

原産協会国際部

四川省にある原子力施設への地震の影響について、関係機関ホームページ、インターネットを通じて得た続報を以下の通りお伝え申し上げます。

1. 関係機関ホームページ情報

(1) 中国原子力産業協会（中国核能行業協会、CNEA、北京）

2008-5-20 15:56（中文概要仮訳）

- ・ 当協会の会員企業である東方電気集团公司、東方タービン発電機有限公司は、死傷者と財産損失という深刻な被害を受けた。地震への対応と救済の重要な時期にあたり、当協会は、会員を代表して、5月19日、両公司に対し20万人民元を献金する。（一元は約14.8円）

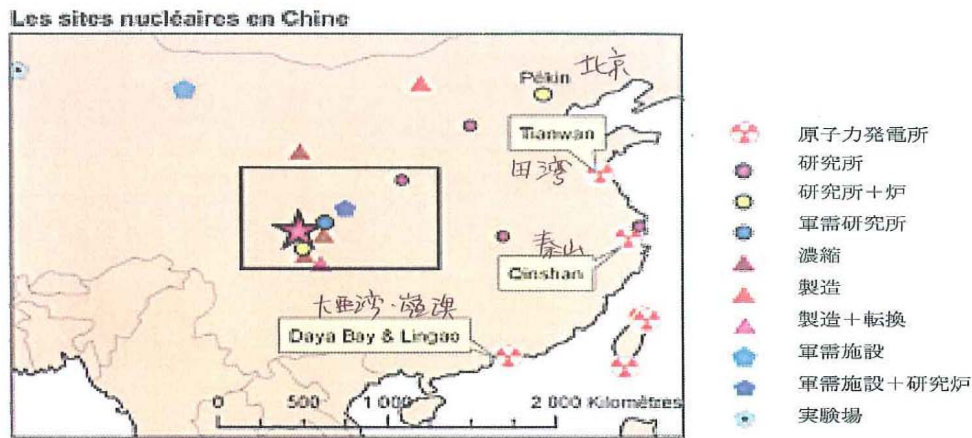
(2) フランス放射線防護・原子力安全研究所（IRSN）より

2008-5-15

「地震と原子力施設」（仏文概要仮訳）

- ・ 中国には中国の安全当局（NNSA）が管轄する原子力発電所、研究所及び核燃料サイクル工場など、多種の民生原子力施設並びに軍需用の原子力施設がある（図5参照）。
- ・ 4箇所の原子力発電所（嶺澳、大亜湾、秦山、田湾）は東海岸にあり、震源地からは1,000km以上離れている（図参照）。今回の地震の際にこの距離で測定された最大加速度は20cm/s²未満であったので、これらの原子炉には大きな損害はないと思われる。
- ・ 四川省には発電所ではないが、いくつかの原子力施設がある（図参照）：
 - － 2つの濃縮及び燃料製造工場（宜賓 Yibin、Heiping）。これらの施設は今回の地震を引き起こした断層から150km以上離れたところに位置している。燃料は照射された燃料ではないので、これらの施設には放射性物質は余りない。在中国フランス大使館から現在入手している情報によれば宜賓の施設は通常通り運転されている。
 - － Jiajiangの研究施設。断層から100km強離れている。
 - － 成都の北東に位置する綿陽(Mianyang)の核兵器開発センター。震源からは100km以上離れているが、断層からは50km圏内である。
 - － 更に北東に行った広元(Guangyuan)には、トリチウムを扱う核兵器製造、プルトニウム再処理、ウラン転換施設と原子炉がある。震源から70kmの場所で観測された加速度(250cm/s²)を考慮すると現段階ではこの施設が損害を受けていないと断言することはできない。
- ・ 中国の安全当局（核安全局）のコミュニケによれば、原子力災害対策計画が発動された。測定の結果、環境への放射能漏れは確認されなかったようである。NNSA が管轄する四川

省の全ての原子力施設は安全な方法で停止されているようである。安全に関わる建物及び設備は損害を受けなかったようである。解体中の原子力施設が、その老化により、又建設当時の耐震基準が今より甘かったことから、軽微な損害を受けたようである。



(図：中国の原子力関係施設) (IRSN ホームページより)

http://www.irsn.fr/index.php?module=presse&action=getCom&mode=topten&com_id=276&lg_code=FR

2. インターネット情報

(1) 新京報 (2008-5-20)

「被災地区では放射性物質の漏洩はみられない」 (中文概要仮訳)

- ・ 環境保護部(省)は、昨日、モニタリング結果によれば、地震被災地区の原子力施設は安全な状態にあり、放射性物質の環境への漏洩はみられないと公表した。また、環境保護部の周生賢部長(大臣)は、被災地区における環境モニタリングのための環境緊急対応車両の増派を求めた。
- ・ 環境保護部幹部の話によれば、大地震発生後、同部(国家核安全局)は直ちに原子力・放射線安全緊急対応案を発動し、同地区の原子力・放射線安全の詳細の把握にあたっている。原子力・放射線モニタリングチームも現場に赴いた。環境モニタリング結果によれば、放射性物質の環境への漏洩はみられない。
- ・ 地震後、四川省内の原子力施設はいずれも安全に停止し、安全に係る設備、構造物は破損を受けていない。
- ・ 環境保護部西南環境監督センター長によれば、今朝、被災地区に入っている周環境保護部長は、中国環境モニタリング総合ステーションに、大型総合環境モニタリング車両2台に加え、さらに車両6台を増派し、7つの深刻な被災市や州がいずれも同類のモニタリング車両を確保できるようにした。残り1車両は、西南環境保護監督センターに配置し突発事象に備えることとした。

(2) 成都市環境保護局 (2008-5-19 大邑県環境保護局 寄稿)

(中文概要仮訳)

- ・ 昨日、当局関係者は、国家環境保護部の放射線専門家、省の放射線管理ステーション、市の原子力・放射線管理所の指導者に同行して、大邑県の化学工業圧力容器工場と整形外科医院の2施設を検査した。
- ・ 化学工業圧力容器工場の探傷室は破損がみられ、省の放射線管理ステーションは、放射線源をただちに安全な場所に移動するよう求め、専任管理者による管理と適切な警備、放射線源の紛失、破損防止を求めた。
- ・ 大邑県の整形外科医院では、放射線源のある場所での破損はみられなかったため、省の放射線管理ステーションは、放射線源に対し厳重に管理、監督し、適切な措置を定めるよう求めた。
- ・ 当局では、両施設に対し、今後定期的に厳重な管理、監督を行う。

(3) 新華社 (2008-5-20)

「周生賢 被災地区で環境保護緊急対応を指導、2つの安全確保」 (中文概要仮訳)

- ・ 環境保護部の周生賢部長(大臣)は、先に現地入りしていた李干傑同副部長周生賢とともに、環境保護部幹部を率いて、四川省の被災地区で環境保護緊急対応を指導した。
- ・ 一行は、四川省政府から、省環境保護局、西南環境保護監督センターの緊急対応の状況を聞き、成都市の飲料水源地の水質と821工場の原子力施設の環境状況を視察した。
- ・ 周部長は、地震対応・救済活動の進展につれ、二次災害の発生を防ぐことが重要だと指摘した。
- ・ 一部の汚染処理施設は被害をうけ、一部の化学工業企業はまだ埋もれており、一部の危険化学薬品は漏洩し、なお数百万の家畜が埋もれており、この種の環境問題が起こるだろう。
- ・ 周生賢部長は、当面、被災地区における環境保護の重要な課題は、原子力・放射線の環境安全と人々の飲用水の安全だと強調した。
- ・ 四川地区の原子力施設の安全について、中央、国務院指導部は非常に重要視しており、たびたび重要な方針を打ち出した。
- ・ これらの原子力施設は老朽化し補修作業が遅れている。そこに今回の地震の影響が加わり、環境安全への隠れた危険性がある。
- ・ さらに、倒れた病院、企業に放置された放射線源は、現在埋もれている。すでに我々は収集、保管作業を始めている。

以上